



れんかく



心臓血管外科の紹介



心臓血管外科部長
齋藤 雄平

当院の心臓血管外科の開設は昭和61年であり、今年で開設30年目の節目に当たります。初代松田光彦先生、昨年まで開設以来28年の長きに渡り御活躍いただいた添田健先生からバトンを受け、昨年4月より私、斎藤が3代目として当科の部長を努めさせていただくこととなりました。紙面をお借りして改めて御挨拶申し上げます。

歴代の先生方や周囲の御協力のお蔭で、診療体制は以前と大きく変わることなくできているように思っています。本年4月からは5人体制となり、9人の臨床工学技士と二人三脚で診療に当たっております。ここ数年は、年間90～110例前後の開心術に、透析のブラッドアクセス手術や静脈瘤を主とした静脈疾患なども含め、年間250例前後の手術を行っています。開心術は弁膜症、冠動脈バイパス術、急性大動脈解離に対する緊急手術が主で、胸部大動脈疾患は、人工心肺を使用しないステントグラフトでの治療が増えてきています。腹部大動脈瘤の手術も、以前から行われてきた開腹による人工血管置換術よりステントグラフトによる血管内治療が増えてきています。近年、循環器疾患は、“ハートチームによる集学的治療を！”と謳われるようになってきており、循環器内科と循環器外科とのタイアップが強調されるようになってきています。当院では循環器内科の先生方の協力で、ハートチームとしての機能がうまくいっているのが特色かと思います。先程のステントグラフトによる血管内治療も循環器内科と一緒に行っており、

カテーテル操作が大きな鍵を握る本治療に、カテーテルのプロが同席しているのは特筆すべき点と考えております。

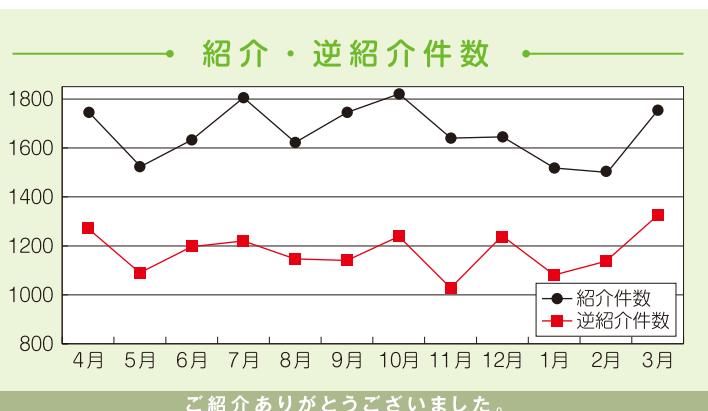
重症虚血肢といった下肢血行障害疾患に関しては、循環器内科、形成外科の3科で、創治療、血管内治療、バイパス術などの外科的血行再建を含めた治療を行っております。3科合同体制での治療というのはあまり行われていないのではないかと思います。さらに、静脈瘤に対しても、本年3月より新たにレーザーによる血管内治療を導入いたしました。

近年、心臓・血管手術の対象患者さんは、余病を持った方が非常に増えており、当科だけで治療が完結できることはほとんどなくなっていました。そこで問われるのが病院としての総合力ではないかと思います。麻酔科、集中治療科による術中や術後管理・術後の重症合併症への対応、神経内科による術前の脳血管評価による脳合併症軽減に向けた検査・処置、糖尿病内科による糖尿病患者さんの術前後の血糖管理、術後の消化器合併症に対する消化器内科・外科による診療、創の問題が生じた際の形成外科の援助など、他科との連携を挙げれば限がありません。周術期のリハビリに関しても、リハビリテーション科の協力で、術前から理学療法士が介入し、土曜、日曜も休むことなくリハビリを行っております。また、感染予防の観点からは、原則的に術前に歯科での口腔内チェックをしています。このように細部にわたって他科の協力があり、合併症が起きにくくよう努めています。我々は本当に微力ですが、それをカバーしてくれるたくさんの診療科、コメディカル・スタッフが存分その能力を発揮してくれており手前味噌ですが、当科での治療は、松江赤十字病院全体の集大成といって過言ではないと思います。

最近では高齢者の患者さんが増えてきており、80歳以上の方の心臓手術も普通となっていました。90歳以上でステントグラフト治療を受けた方もいらっしゃいます。適応を十分検討した上で、高齢者の方でも積極的に外科的治療を介入するよう心がけています。上記に該当するような方がいらっしゃいましたら、遠慮なく御声掛けいただければと思います。

近年、いろいろなところから低侵襲治療の波が押し寄せてきています。新しいことばかりがいいこととは限らないようにも思いますので、その辺りを見極めつつも、波に乗り遅れないよういろいろなことに取り組んでいきたいと思っております。

今後とも御指導、御鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願ひいたします。





消化器内科
結城 崇史

消化器内視鏡の診断・治療や、炎症性腸疾患などを専門としています。どうか、よろしくお願ひいたします。

総合診療科
石原 俊太郎

よろしくお願いします。

神経内科
本田 誠

島根の医療を担う一員として自分にできることを精一杯頑張っていきたいと考えます。どうぞよろしくお願いします。

循環器内科
岡村 昌宏

鳥取県八頭郡出身で、鳥取大学を卒業、医者6年目となりました。この地域の医療に貢献できるよう頑張ろうと思いました。宜しくお願いいたします。

循環器内科
岩崎 洋一郎

一人一人に合った医療を実践できるように頑張ります。

小児科
石井 朋之

子供たちが健やかに成長できるよう、頑張ります。

第二外科
梶 俊介

島根大学から参りました、外科の梶俊介と申します。いつも誠意のある対応を心がけて参ります。

形成外科
山川 翔

ワタシは松江で生まれ、育ちました。自身のけががきっかけで形成外科を志しました。外傷は一生を左右しかねない問題なので、最小の犠牲で済むようお手伝いさせていただきます。

形成外科
渡部 雅子

4月から形成外科医として松江赤城でお世話になることになりました。若輩な身ですが、誠心誠意努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器外科
宮本 英明

滋賀から参りました呼吸器外科の宮本と申します。早く松江及び島根県の地域性も把握して診療に臨んでいたらと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

乳腺外科
楳野 好成

わかりやすく丁寧な説明に心がけ、安心して検査・治療を受けて頂くように努力します。また治療についてはガイドラインに沿った診療を心がけます。

泌尿器科
岩本 秀人

小さなことでも皆様のお役に立てるように頑張ります。

麻酔科
安部 翔子

初心を忘れずに頑張ります。

麻酔科
青山 由紀

手術を受ける患者さんの痛みや不安が少なく、手術後もスムーズな回復につながる麻酔管理に努めます。よろしくお願いします。

集中治療科
坂下 真依

初めまして。この度、集中治療科で勤務させていただきました。微力ですが地域医療に貢献できるよう診療していきたいと思います。

歯科口腔外科
原田 勇聖

3月までは地域医療に従事しておりました。患者さまには笑顔を絶やさず丁重な診療を心掛けていきたいと思います。

退職者

●平成26年12月31日付 乳腺外科部長 村田陽子 第二外科副部長 大江秀典
●平成27年2月28日付 神経内科副部長 田村邦彦
●平成27年3月31日付 第一産婦人科部長 澤田康治 形成外科副部長 西建剛 病理診断科部副部長 高橋卓也 消化器内科医師 板倉由幸 循環器内科医師 柳原清孝 小児科医師 小池大輔 泌尿器科医師 弓岡徹也 歯科口腔外科医師 奥田学兒 第一産婦人科嘱託医師 川上伸兒

研修医紹介

石倉 聰
島根県雲南市出身です。日々新しいことばかりで刺激的な毎日を過ごしております。よろしくお願いします。



阿武 茉利
私は松江市出身で島根大学卒業なので、地元で働くことをとてもうれしく思っています。笑顔を忘れず、積極的に頑張ります。



石倉 正大
ここまで長い道のりでしたがようやく医師になれました。これでゴールではなく、ようやくスタートラインにたてました。日々成長できるよう努力します。



八幡 宥徳
初めて。初期研修医の八幡と申します。島根大学出身の米子出身です。何事にも一生懸命取り組んで、多くのことを学んでいきたいと思います。



大谷 はづき
4月より1年間、松江赤十字病院で研修させて頂きます。人の痛みが分かる医師を目指して、日々前向きに頑張ります。よろしくお願いします。



新谷 洋子
こんにちは。島根大学出身の新谷洋子です。一日一日を大切に、笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。



江原 浩明
できるだけ早く一人前になって地域の医療に貢献して行けるよう精一杯努力していくうう思います。よろしくお願いします。



長田 広樹
人間万事塞翁が馬。焦りすぎることなく、油断することもないようにして頑張ろうと思います。一年間よろしくお願いします。



石原 憲一郎
研修2年目で島根大学から来ました。8年ぶりの松江です。至らない所多々ありますがあざらしくお願いいたします。



隠岐おしあげ勉強会報告

乳腺外科部長　曳野　肇

3月6日(金)に、隠岐病院講堂で、隠岐病院、地域医療機関、隠岐保健所のスタッフの方々へのおしあげ勉強会を開催しました。

勉強会ではまず、地域医療連携齊藤文章課長より「当院の地域連携の現状について」と題し、隠岐圏域医療機関と当院との連携に関する全体像の紹介を行いました。次に地域連携室坂本看護師により、「乳がん地域連携クリティカルパスの現状と運用」ということで、乳がんに関する連携パスの詳細な運用内容の説明を行いました。



その後、曳野より「乳がん手術、術後ホルモン治療と経過観察のポイント」について当院でのデータを交えながら、連携をしていただく上での基礎知

識をお話しました。最後に、林乳がん看護認定看護師より、「当院における退院指導とその後のケア」について、人工乳頭や下着などのサンプルを見てもらひながら当院での患者指導内容などを紹介しました。

幸い好天に恵まれましたが、トラブルでレンジボーゲットが洋上で漂う経験もし、患者さんにとって海を渡って病院に通うことは大変なご負担であろうと実感しました。今まで隠岐病院や診療所の先生方には、多くの患者さんで乳がん地域連携パスにご協力いただいていますが、今後はさらに使いやすい内容や適応拡大などを考えていくことが求められていると思いました。院長先生や横地看護師さんを始めとして病院スタッフの方々には懇親会までお付き合いいただき、楽しいおしあげ勉強会となりました。ありがとうございました。



地域医療従事者研修会を開催して

地域医療連携課長　齊藤 文章

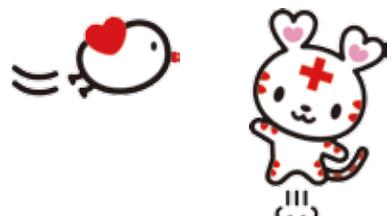
去る3月21日(土)松江赤十字病院本館6階講堂にて地域医療従事者研修会「高齢者の終末期医療について～施設の看取りと向き合う～」と題した研修会を病院内・



外の医療、福祉関係者総勢140名近い参加を得て、無事開催することができました。今回の企画は、現在国が勧めている施設での看取りについて、東京都世田谷区にある「特別養護老人ホーム芦花ホーム」医師石飛幸三先生の講演と「特別養護老人ホーム明翔苑」での取り組みについて武部幸一郎先生から、また急性期の病院の現状を踏まえ今後どのような支援が望まれるのか当院検査部長内田靖先生から報告頂きました。施設などの福祉関係者や医療関係者双方で学ぶ良い機会となりました。この場を借り、ご参加いただきました皆様に御礼申し上げます。



上段左より 高見 斎藤 石橋真一 近藤
中段左より 石橋美和 福田 井山
下段左より 林 三島 吉田



地域医療連携課の
メンバーです。
よろしくお願ひします。



松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261